

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 5 2 号 平成 2 9 年 3 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

D” A T C H の武藤洋平さん(プロジェクト発表の部)と後藤剛さん(意見発表の部)が
東北大会へ出場!

～平成 2 8 年度『福島県農村青年会議』を開催～

福島県農業青年クラブ連絡協議会と当公社の主催による「福島県農村青年会議」が、2月3日(金)に農業総合センターで開催されました。この会議は、農業青年などが一堂に会し、プロジェクト活動の成果や農業に関する意見発表及び研修を行うことにより、本県農業・農村の復興と将来を担う農業青年の資質向上を目的として開催したものです。

当日は農業青年クラブ員など 80 名が参加し、「プロジェクト発表」の部「意見発表」の部ともそれぞれ 5 名の農業青年らが発表を行いました。

審査の結果「プロジェクト発表」では、安達地方の青年組織 D” A T C H の武藤洋平さん(二本松市)が発表した「地域一体の魅力的な農村づくり」が最優秀賞(県知事賞)を受賞しました。武藤さんは二本松市東和地区で菌茸の単一経営に農家民宿を取り入れ、アンケート調査を実施するな

ど顧客ニーズを捉え、課題解決に対応しようとする姿勢が高く評価されました。

「意見発表」では、須賀川、石川地域の青



意見発表をする
荻野育恵さん(須賀川4Hクラブ)

年組織須賀川4Hクラブの荻野育恵さん(玉川村)が発表した「たまかわ村のさるなしさん」が優秀賞(公社理事長賞)を受賞しました。荻野さんは地域おこし協力隊として県外から着任し、新しい視点で村の特産物であるさるなしの魅力を掘り起こした点が評価されました。また、D” A T C H の後藤剛さん(本宮市)が発表した「20代最後の決意」も優秀賞(農業青年クラブ連絡協議会長賞)を受賞しました。

武藤洋平さんと後藤剛さんは、今年の11月に岩手県で開催される東北大会に本県代表として出場することになります。

なお、その他の受賞者は次のとおりです。

- 「プロジェクト発表」
- ◇ 優秀賞(公社理事長賞)
下山田善裕(いわき農業青年クラブ連絡協議会)
 - ◇ 優秀賞(農業青年クラブ連絡協議会長賞)
安斎秀俊(平野農業後継者協議会)



知事賞を受賞した
武藤洋平さん(D” A T C H)

締め切りが変更

～ 農地中間管理事業の各種申出 来年度から ～

農地中間管理事業については、平成26年度の制度創設後約3年が経過し、契約件数も年々増加していることなどから、賃借料の精算時期直前の新規契約や賃借料単価の変更等の対応が困難になっているところですが、

つきましては新年度より機構への各種申出の期限を次の表のとおり変更することにいたしました。

関係者の皆様には、ご迷惑をおかけしますが、

状況を御理解いただき、引き続き農地中間管理事業の推進について一層のご協力をお願いいたします。

機構借入契約	6月末日市町村公告分まで
機構貸付契約	8月末日県認可公告分まで
既貸借契約の変更	8月末日市町村変更承認又は配分計画の変更決定分まで
既貸借契約の解約	8月末日合意解約成立分まで

農地中間管理事業を活用した集落営農の推進を

～ 集落営農推進セミナー(郡山市)での事例報告から ～

2月8日(水)に福島県農業総合センターで開催された集落営農推進セミナー(主催:県等)において、当機構(福島県農地中間管理機構)会津若松推進拠点の左雨信一郎地域マネージャーが農地中間管理事業を活用(予定)している集落営農法人の取組事例2事例の報告を行ったのでその概要を紹介します。

1つ目の事例は会津若松市平塚地区の「農事組合法人会津ひらつか農園」です。会津盆地の平場にある同地区は、集落内に農業後継者がいない中、集落の方々が集落の将来に危機感を感じ話し合いを進め、平成23年に農業生産組合を設立しました。平成25年には、この農業生産組合を中心に地区の人・農地プランを作成すると同時に、法人化に向けた勉強会を開催し、平成27年11月に「農事組合法人会津ひらつか農園」が設立されました。機構としては、会津若松市や県会津農林事務所と連携し、集落説明会において農地中間管理事業に関する説明を行い、平成27年度内に農地

中間管理事業により約27haの農地を同法人に転貸しました。さらに平成29年度からは米の本格的な直販や直売所向け野菜の作付に取り組む予定で、将来的には、ミニライスセンター整備の構想も視野に入れているとのことです。

2つ目の事例は猪苗代町釜井地区の「農事組合法人釜井ファミリーファーム」です。平成28年度の農地中間管理事業重点地区である同地区に対し、猪苗代町など関係機関が連携して集落の集まり等を開催し、同法人設立を支援しました。機構はその中で農地中間管理事業の制度周知に努めました。同法人は今年1月に設立され、地区の人・農地プランも作成予定で、3月には機構借入となる見通しとなっています。

左雨地域マネージャーからは、この2つの事例に共通することは、リーダーや集落を何とかしたいと思っている人材が存在すること、集落内のコミュニケーションがうまく取れていること、スケジュール感を持って各種事業に取り組むこと、が挙げられると示唆に富んだ報告がありました。

機構としては、今後とも県や市町村、JAなどと連携を強化し、集落の話し合いに積極的に参加して、集落営農の推進に役割を果たしていく考えていますので、お気軽にご相談ください。



集落営農推進セミナーでの報告の様子

青年農業者等育成センター

準備型給付金を52名に給付(28年度)

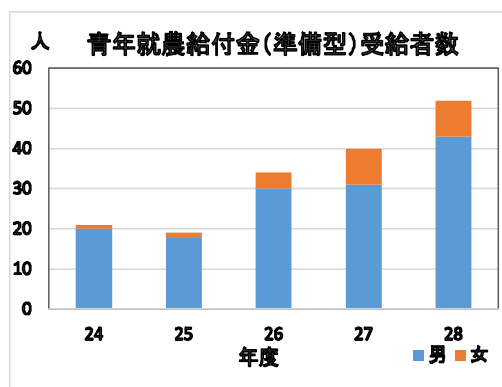
青年就農給付金(準備型)は、就農に向け先進農家等で農業研修を行う方々を支援するため1年間に150万円を給付するものですが、給付対象者は年々増加しており、平成28年度は52名の方に72,750千円を給付しました。

52名の内訳は、独立・自営就農を目指す方が40名、親元就農が2名、雇用就農が10名です。

就農後の経営類型では、独立・自営や親元就農する方の7割近くがトマト等の野菜を主体にした経営を目指しており、次いで果樹、花卉、菌茸、水稻、繁殖牛の順になっています。

52名の中には非農家出身の新規参入の方も半分近くおり、皆さんが熱心に研修を行っています。

今年3月で研修を終了する24名は、4月以降、希望を胸に県内各地で就農していくことになりま



地域マネージャー便り

福島県農地中間管理機構
会津若松推進拠点

地域マネージャー さつさしんいちろう
左雨 信一郎



会津若松市・磐梯町・猪苗代町が私の日常の活動エリアです。

農地中間管理事業推進を旨として、担い手への農地の集積・集約、そのための人・農地プランの作成支援等に取り組んでいます。

早いもので職を戴いてもうすぐ満2年になります。その間、50集落以上の制度の集落説明会等に出席しましたが、大半は農業経営者の高齢化と担い手不足が最大の課題となっています。もう待

つので、皆様の温かいご支援をお願いいたします。

29年度から給付金の名称が変更

青年就農給付金は29年度から、「農業次世代人材投資資金」に改称され、内容についても次のように一部変更になる見込みです。

- ① 国内の2年間の研修に加え海外研修を行う場合は、要件を満たせば交付期間を1年延長することが可能になります。
- ② 新たに加わる要件としては、雇用就農する場合を除き、就農後5年以内に認定新規就農者又は認定農業者になることが必要になります。

6月に受給希望者を募集

農業次世代人材投資資金(準備型)の募集はこれまでと同じく6月を行うことを予定しています。

募集時期が近づきましたら、募集要領を育成センターのホームページに掲載するとともに県農林事務所や市町村等の関係機関にもお知らせします。

希望される方には研修計画等の申請書類を提出していただきますが、研修先や研修内容、就農形態等について一定の要件がありますので、詳しくは育成センターか県の各農林事務所(農業振興普及部・農業普及所)にお問い合わせください。

ったなしの状況とも映ります。

それでも今、みなさんの集落で次の世代へのバトンタッチ・仕組みづくりに真剣に取り組めば、まだ間に合うという思いで事業推進にあたっています。現状の厳しい状況を嘆き、誰かのせいにしても何の解決にもなりません。自分たちの農地、農村は地域で守る気概が試されています。人・農地プラン等で話し合いを進めれば必ずやその地域に合った答えが見つかるはずです。美しい地域を孫の代へと繋ぐ地域の仕組みづくりに農地中間管理事業を活用ください。私たち地域マネージャーが微力ながらお手伝いします。

どうぞお声かけください。

『4Hクラブが私にもたらしたもの』

第47回東北農村青年会議福島大会
実行委員長 佐藤 学 さん(32歳)
(須賀川4Hクラブ)

私は、須賀川市で水稻・キュウリ・長ねぎなどの生産をしています。

農業を始め丸10年が経とうとしていますが、考え方や経験値、その全てが8年も所属している「4Hクラブ」にあると言っても過言ではありません。

最初は、同じベースで話のできる友達作りが地元クラブに入った理由です。しかし、当時は皆若かったのが、馬力があり、意欲があり、間違いなく将来、地域のリーダーになるであろう、そんな人たちの仲間に加わったんだ、そんな感覚に変わっていきました。

震災直後に県青年クラブに執行部として参加し、あれから6年、副会長を2年務めるなど色んな経験をしました。その中でも「東北農村青年会議」は特に印象深く、私は東北大会6県全てを歩くことができました。全国大会も何度も行きました。東北・全国には、先程述べたような地域のリーダーたる若手が本当にたくさんいます。色んな方々と知り合い、仲間意識を共有できる素晴らしい人達と出会いました。やはり、震災を経験したことがたくさんの方と出会うキッカケになりました。

昨年11月、震災後初めて福島で東北大会が開かれました。私はこの大会で実行委員長を務め、「この福島大会は絶対に成功させたい！」と強く思い



ました。震災後から東北大会を全県体験し、自分達らしい大会を作りたかったからです。ですが、一人では何もできません。大会までの1年2か月、周りの協力のおかげで成功で

きました。「復興」を全面に打ち出し、場所をハワイアンズにし、高校生にも事例発表をしてもらい、浜通りの復興の歩みを視察していただき、とにかく福島の馬力を感じてもらうことが一番の目的でした。東北以外のクラブ員にも声掛けをし、今復興へ歩みだそうとしている九州熊本へ何かをしなくては、という事で寄せ書きと義援金を贈ることができたのは、委員長として一番印象深いことでした。

先日、青森の4Hクラブの方の結婚式に出席しました。全国に友人を作る事ができたのも4Hクラブのおかげです。須賀川の4HCメンバーで長ねぎの共同出荷を新たに経営に取り入れることもできました。食育活動として、野菜の生長を「ものまね紙芝居」で消費者や子供達に伝えることができたのも4HC活動の農見本市がキッカケです。

若い農業者へ、なんて大それたことは言えませんが、農業は情報が大事です。今やネットやSNSでいくらでも情報は入ります。ですが、どれだけの人と会って自分でどれを選択するかによってチャンスも可能性も掴めます。情報は人です、人は情報です。ひとつ4Hクラブをツールにしてみてください。だから、私は「全てだ」と言い切ります。

編集後記

今年度も「あぐりサポートニュース」を計画とおり3回発行することができ、皆様のご支援とご協力に、編集委員一同心から感謝申し上げます。現在、私の父は老人介護施設に入所しており、面会時いろいろ話をしますが、私の顔は分かっているようでも名前は出てきません。震災以降、米の作付けはしていませんが、農作業のことはとても心配しているようで「今年も去年と同じく苗は170箱頼んでくれ」とかいろいろ私に指示します。これから暖かくなるにつれ農作業が始まり農業機械

を使う機会が多くなりますので、高齢者の方にはケガなどないよう機械操作には十分注意していただきたいと思います。今年も好天に恵まれ豊作になることを願っています。(村松清一郎)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8階

公益財団法人福島県農業振興公社 総務課

TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277

URL <http://www.fnk.or.jp>